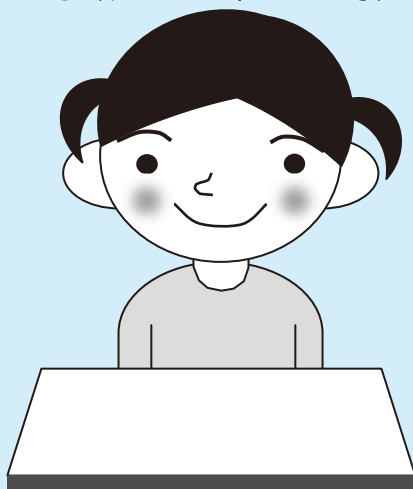


(2) 通級指導学級におけるアセスメント③

※このアセスメントは、在籍学級において活用することも可能です。

学級に文章の読解が苦手な児童・生徒はいませんか。



○平仮名や漢字はある程度読めるが、長い文章の内容を読み取ることが苦手である。

○作文が苦手である。

◆このような児童・生徒の状態を把握し、学習支援を行うためのアセスメントとして有効なのが**絵の読み取りテスト**です。

◆絵の読み取りテストとは

ある状況を示したイラスト（絵）を見て、それがどのような状況であるか、読み取ったことを説明したり、作文したりするテストです。

作文する際に、特殊音節などを正しく書くことができるか、状況を的確に理解できているか、登場人物の気持ちを想像できているかといったことがわかります。

絵の読み取りテストは、右のようなものがあります。



(解答例1)

男の子が、授業中に騒いでしまっているので、隣の子に注意されている。

(解答例2)

隣で騒いでいる子に注意している。



(解答例1)

男の子が、けがをして保健室へ行き、先生に治療してもらっている。

(解答例2)

男の子が、けがをして保健室へ行った。そこで、先生に塗ってもらった薬がしみて泣いている。



(解答例1)

夏休みが終わって、友達同士で夏休みにあったことを話している。子供が、「花火を見に行ったよ」「スイカを食べたよ」と話している。

各種発達検査等について

実態把握の方法としては、WISC-Ⅲ、及びK-ABCなどの発達検査があります。これらの実施は、各1時間前後にわたる長時間の検査の中から、有意義な情報をできるだけ引き出さなければならないこと、検査結果の数値だけでなく、検査中の児童・生徒の行動観察や、応答の仕方などを通して状態像を解釈しなければならないことから、検査者の側に高い専門性が必要とされます。心理士等の専門家を活用するなどして検査を実施し、アドバイスをもらう等の対応に取り組むことが望ましいでしょう。

実行機能について

実行機能は、課題や活動の段取りを考え、とりかかり、継続して取り組み、やり遂げる一連の行動を実行する力のことといえます。

学習障害などの児童・生徒の場合、この実行機能が弱いということが言われています。実行機能には、課題の整理や優先付けをして課題にとりかかること、課題に向かい続けること、自らの行動を振り返ることなどが含まれています。

このような実行機能が弱い児童・生徒を支援するためには、スケジュール表やワークシート等を活用することが有効であると言われています。

ワーキングメモリについて

読み書きの障害の背景に、「ワーキングメモリの弱さがある」という指摘があります。

ワーキングメモリは、短い間情報を蓄えておく記憶のことです。例えば、「鉛筆とメモ帳を持って、靴に履き替えて玄関に集まってください。」という指示を聞いて行動する場合、鉛筆とメモ帳を持ち物として記憶するとともに、靴を履き替え玄関に行くという行動を記憶して活動をする必要があります。このような、一時的な記憶の部分が弱いと、持ち物を忘れてしまったり、目的の場所が分からなくなったりします。

近年の研究から、注意して反復しながら学習することが必要な課題(例えば、新しく出会う単語の読みを覚える学習や、九九や年号の記憶など)に、ワーキングメモリが役割を果たしていることが分かってきました。ワーキングメモリが弱い場合には、絵を利用することや意味の理解に基づいて学習することが、大切であることも分かってきました。

また、文章を読み進める場合などには、今まで読み進めてきた情報を整理し、記憶しながら、先の文章を読み進めていくという処理が必要になります。この記憶の部分が弱いと、文章全体の関連付けがうまくできず、文章の意味を捉えることが難しくなります。

このため、読み書きに障害のある児童・生徒の指導に当たっては、「ワーキングメモリが弱い」ということを念頭において、例えば、メモを取るように指示をする、指示は一つずつ行うなどの手だてを工夫する必要があります。

4

通級指導学級における個別指導計画の作成

(1) 短期個別指導計画について

「短期個別指導計画」は、例えば、1ヶ月単位など、短い期間での実態把握や目標設定を行い、項目を絞って書き込みます。

短期的な目標設定を行うことで、対象となる児童・生徒の状況に応じたスモールステップの学習支援が可能となります。

◆氏名等について

氏名、生年月日、年齢（月齢）、学年、記載時の年月日、記載者を記入します。特記事項には、アセスメントの評価等を記入します。

◆指導の形態等について

週あるいは月に何日、何時間通級しているか、集団指導か個別指導か、重点的な指導が必要な領域は何か、などについて記入します。

◆長期目標について

学校で作成している個別指導計画で設定されている長期目標を記入します。

記入例：(1)平仮名・片仮名を習得し、流暢に読むことができる。

(2)促音、長音、拗音を正しく読み書きできる。

(3)語彙を増やす。

長期目標の欄には目標の設定日と評価日を記入し、評価日には目標達成の程度を評価します。例えば長期目標を4か月間の指導を目途に設定し、短期目標を1か月ごとに設定する場合、長期目標の評価日まで「短期個別指導計画」を4期間分作成することになります。長期目標の評価は、4期間それぞれの短期目標に対する評価のまとめになります。

◆当期の短期目標と手だてについて

対応する長期目標について短期目標を設定し、達成までの手だてを記入します。

記入例：(1)短期目標「MIMテスト1で10問正解できる」

手だて「ことば絵カードを活用し、隔週でMIM-PMを実施する」
目標や手だては、具体的に記入します。

◆評価と来期の短期目標について

短期間の指導の実施後は、目標達成度を評価します。

評価を基に、来期の「短期個別指導計画」を作成します。例えば読み書き支援プログラムのプリントは教材として使えるので、学習結果を新しいアセスメントの結果として生かすことができます。

評価に当たっては、児童・生徒の目標に対する評価と、行った手だてに対する評価を分けて行うことがポイントです。こうすることで、どのような手だてが児童・生徒にとって効果的であったかが分かります。

短期個別指導計画													
氏名	生年月日	年	月	日	(歳)	月	学年	指導形態	週/月	日	曜日	時間	集団/個別
記載時													
年													
月													
日													
(記載者)													
指導領域													
聞く/話す/読む/書く/計算する/推論する/行動/社会性													
特記事項													
()													
長期目標		設定日	評価日	評価									
(1)													
(2)													
(3)													
対応する長期目標	当期 (/ ~ /) の短期目標と手だて	評価	対応する長期目標	来期 (/ ~ /) の短期目標と手だて									
(1)	目標 手だて	() ()		目標 手だて									
(2)	目標 手だて	() ()		目標 手だて									
(3)	目標 手だて	() ()		目標 手だて									

※通常の個別指導計画は、「特別支援学級（固定学級・通級による指導）教育課程の手引き」（平成23年3月 東京都教育委員会）に様式例を挙げています。